

# キャリアチェンジ 派遣の立場で

「キャリアチェンジ支援機関」としての  
派遣会社の役割と可能性を問う



本誌では2024年3月号において、「派遣スタッフとキャリアチェンジ」というタイトルで、4000人の派遣スタッフの「職種間移動」に関する特集を組んでいる。その際に感じた、統計データの「不備」や「課題点」などを基に、質問内容を改善、かつ新たな質問項目も加えた、いわば前回のパワーアップバージョンが、「キャリアチェンジをするなら派遣の立場でしたい、が、45.6%」という、やや長いタイトルの本特集である。テーマと狙いは、「人材のキャリアチェンジ支援機関、としての派遣会社の役割と可能性を問う」ことにあり、本特集がそうした議論が活発化するきっかけになれば幸いである――。

(本誌 伊藤秀範)

# をするなら したい、が、45.6%

特集

派遣スタッフの10人に1人が  
「希望職種は別にある」と回答!

派遣会社に「キャリアチェンジの  
相談窓口が欲しい」の声も



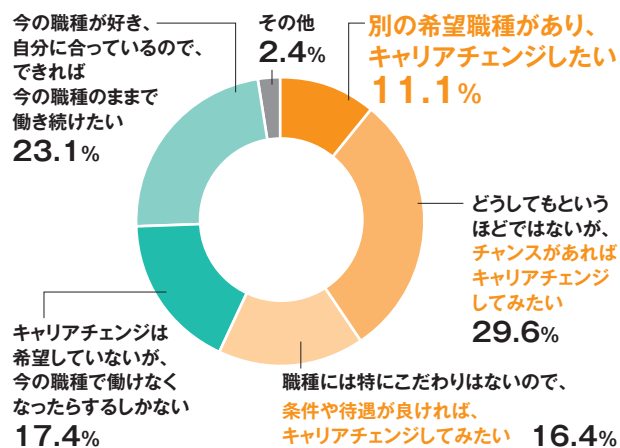
## ■調査概要■

- 実施期間・・・2024年3月18日～22日
- 有効回答数・・・4000人 ●男女比・・・男性 1567人 (39.2%)、女性 2433人 (60.8%)
- 年齢比・・・10代:3人 (0.1%)、20代:329人 (8.2%)、30代:770人 (19.3%)、40代:1207人 (30.2%)、50代:1277人 (31.9%)、60代:414人 (10.4%)
- 雇用形態・・・有期雇用:2811人 (70.3%)、無期雇用:1189人 (29.7%)

※回答率(%)は、小数点以下第2位は四捨五入により、小数点第1位までを表示しています。そのため、合計数値は100%にはならない場合があります。

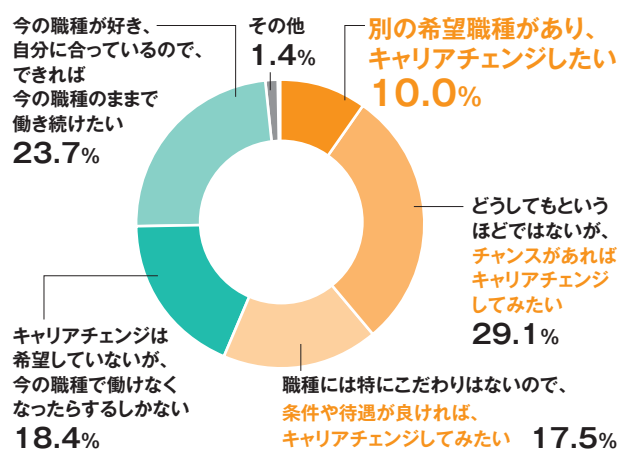
図表1 2024年3月調査

現在の職種から別の職種へのキャリアチェンジの可能性について。(回答は1つ) n=4000



図表2 2023年9月調査

現在の職種から別の職種へのキャリアチェンジの可能性について。(回答は1つ) n=4000



※回答率(%)は、小数点以下第2位は四捨五入により、小数点第1位までを表示しています。  
そのため、合計数値は100%にはならない場合があります。

## 派遣スタッフ目線による「広義のキャリアチェンジ」という視点

職種間移動だけでなく、〆働き方間移動〆を伴うケースも

「別の希望職種があり」が前回より増加

派遣スタッフの「キャリアチェンジに対する関心度」については、本誌は2023年9月、4000人の派遣スタッフに対して「現在の職種から別の職種へのキャリアチェンジの可能性について」の調査を実施している。

その結果が図表2の円グラフであり、キャリアチェンジにポジティブな回答肢である「別の希望職種があり、キャリアチェンジしたい」(10・0%)、「どうしてもというほどではないが、チャンスがあればキャリアチェンジしてみたい」(29・1%)、「職種には特にこだわりはないので、条件や待遇が良ければ、キャリアチェンジしてみたい」(17・5%)の合計は56・6%。つまり、派遣スタッフの過半数は、そのスタンスに違いはあるものの、キャリアチェンジを「ポジティブかつ前向き」に受け止めている様子がうかがえる。

そして、その半年後の2024年3月に実施した同調査結果が、その上の円グラフ(図表1)であ

「20代男性」の34・2%が「別の希望職種がある」

さて、本特集のタイトルでもある「キャリアチェンジをするなら〆派遣の立場でしたい〆が、45・6%」というメインの論点に行く前に、その理解を深める基本データとして、冒頭の4000人の派遣スタッフに対する「現在の職種から別の職種

る。

こちらを見ると、キャリアチェンジを「ポジティブかつ前向き」に受け止めている派遣スタッフの割合は、半年前の調査よりもさらに広がり、「別の希望職種があり、キャリアチェンジしたい」(11・1%)は前回比で1・1ポイント増、「どうしてもというほどではないが、チャンスがあればキャリアチェンジしてみたい」(29・6%)は0・5ポイント増となっている。

また、「その他」の割合も、前回の1・4%から1・0ポイント増加しているが、その具体的な内容としては「キャリアチェンジしたばかり」(34歳女性・東京・中堅派遣・事務)、「現在の仕事に付加価値をつける資格が欲しいため、キャリアチェンジより『できること』を増やしたい」(46歳女性・愛知・大手派遣・その他)、「職種の変更よりも、正社員化が必要」(47歳男性・東京・中堅派遣・その他)、「今は体調等の理由で働けていないので、まだ何とも言えないです」(53歳女性・静岡・中小派遣・その他)などのコメントがあった。

「キャリアチェンジ」とは、一般的に現在の職種から別の職種への「職

へのキャリアチェンジの可能性について」の直近データにも少し、触れておきたい。

図表3は冒頭の「現在の職種から別の職種へのキャリアチェンジの可能性について」のデータを、「性年代別」に分類したものである。こちらを見ると、キャリアチェンジに対するポジシオン、志向性は、性年代別のアンクルによっても、微妙に異なっていることが分かる。

種間移動」をいうが、派遣スタッフの場合、例えば「派遣スタッフから正社員」「派遣スタッフからフリーランス」のような、いわゆる〆働き方〆間移動のようなケースも、キャリアチェンジの一つと認識されている様子が、本誌のアンケート調査ではよく見受けられる。

実際、本調査においては、そのあたりを考慮に入れた質問も新たに追加している。

例えば、「別の希望職種があり、キャリアチェンジしたい」を選択した445人に対しては、「キャリアチェンジの具体的な希望職種」と併せて、今回からは新たに「それを派遣スタッフの立場でしたいのか」という質問も加えた。

その調査結果の一つが、本特集のタイトルでもある「キャリアチェンジをするなら〆派遣の立場でしたい〆が、45・6%」というデータにつながっているのだが、見方を変えればそれ以外の54・4%は「派遣という働き方以外」でのキャリアチェンジをイメージしているとも受け取れる。

つまり、派遣スタッフにとつてのキャリアチェンジには、職種間移動だけでなく、正社員やフリーランスな

例えば「別の希望職種があり、キャリアチェンジしたい」を選択している割合を見ても、全体平均では11・1%であるのに対して、「20代男性スタッフ」は34・2%と約3倍のボリュームであるのに対して、「60代女性スタッフ」は2・9%に過ぎない。

傾向としては、「別の希望職種があり、キャリアチェンジしたい」の割合は年代が若いほど高く、年代が上がるのに応じて低下している様子がうかがえた。

一方、「どうしてもというほどではないが、チャンスがあればキャリアチェンジしてみたい」の選択肢では、男女スタッフともに「30代」の割合が最も高く、それ以降の世代でも、全体平均に近い割合を示している。

キャリアチェンジに向けた明確なビジョン、積極的に動くほどの志向性はないものの、「チャンスがあれば」、つまり他者からのいい条件での働きかけなどがあれば検討してみたいという意識の人たちが、30代以降の派遣スタッフには比較的多い様子が、データから浮かび上がる。